

熊楠ワークス

/ C / O / N / T / E / N / T / S /

第14回南方熊楠賞

本賞に佐々木高明氏
特別賞は飯倉照平氏 1~2面

「南方邸所蔵品の目録」

今年から順次刊行へ
田村義也氏 3~4面

南方熊楠と熊野の温泉

第1回・白浜温泉
安田忠典氏 5~4面

熊楠ゆかりの地を訪ねる21

南海療病院と千代田屋 中瀬喜陽氏 10面

大英博物館至宝展 11面

vol
B



昨年の夏頃だったか、東京のコグーイ芸術教育研究所というところから、わらべうたの本の挿し絵の注文がありました。今年の初めに仕上がりましたが、この本を、小学校などに呼ばれて行った時に子どもたちに読んでやりますと、なんと、子どもたちは魔法にかかったみたいになるのです。

ザワザワしていた子も、後ろを向いていた子も、必ず決まって、全員がその本と言葉に集中するのです。決まって、です。一度、試してみてください。

「わらべうた」の魅力って何だろうと思いましたが、おそらく、ことばの持つ魔力みたいなものが、人間の本能に直接働きかけるのでしょう。不思議で、おもしろい現象です。

以前出した「南方熊楠特集」7冊セットの中に『紀州の俗謡』と『紀州の俗伝』がありますが、これを作る時、わらべうたで育った子とわらべうたに接していない子が、わたしの少し下の年齢あたりで、きちんと線引きされました。

先人のことばを、たとえ今すぐ意味はわからなくても、わたしたちは伝えて送る義務があるのではないかと改めて感じているのです。

なぜなら、子どもは子どもとして、今も昔も少しも変わっていないように思えるからです。熊楠もハンガリーのコグーイも、同じ思いだったに違いありません。